



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成29年11月06日 第843号「週刊五十嵐レポート」

人間にしかできない仕事

年間130万人の人が亡くなる社会において、葬儀や法要で「僧侶派遣サービス」を利用する人が増えている。インターネット通販のAmazonは2015年12月から「お坊さん便」の取扱いをはじめている。仏教会は異議を唱えているが、ユーザーの支持を得て、取扱いは年々増加傾向とのこと。

本来の仏教の役目は、教えを広め、人生に直面した問題について解決策を与えることではないか。現状は、ただ葬式に行ってお経をあげるだけで、教えを受けたという実感はない。人生に悩んでもお坊さんに相談しようとする人はいない。葬儀社やネット通販の下請けになってもしかたがない。

税理士事務所に特化しているコンサルタントに話を聞いた。

税理士業界も変わっていく。今の状態でも食べていけるのは2020年まで。それ以降、経理代行サービス会社が台頭してくる。スキャンシステムが発達して、領収書や伝票をスキャンして自動的に仕訳できるようになってきた。経理代行サービス会社が申告まで行う。経理代行サービス会社が顧客に合わせ、税理士を派遣する。税理士が下請けになってしまう。税理士事務所のスタッフの大半が記帳入力作業になっている。これらが自動化していけば、スタッフはいらなくなる。

ITやAI(人工知能)のできる仕事はそれらに任せることになる。それでは人間にしかできない仕事をやる。人間にしかできない仕事とは、コンサルティングだという。税理士の顧客は、中小企業の社長が主力。社長の関心事は、税務・会計よりも経営のこと。結果の報告より今後のこと。経営のことを学ぼうと税理士が戦略社長塾・小岩校、銀座校に通うようになってきた。2年以上学んでいる税理士は、社長との会話が税金の話から経営の話に変わったと。

ブッタが出家したのは、4苦(生・老・病・死)を救うため。お坊さんは、これらを解決するスペシャリストにならなければならない。税理士は、税務会計のスペシャリストはもちろん、経営のスペシャリストになる必要がある。中小企業の社長が付き合って良かったといわれる人になってもらいたい。(私の仕事がなくなるかも)

ちょっと
気になる出来事

最近、塩野七生氏のエッセイを読んでいる。(「日本人へ」シリーズ) 50年間、西洋史を勉強して、何を学んだのか。

「長期にわたって高い生活水準を保つことに成功した国と、反対に、一時期は繁栄してもすぐに衰退に向ってしまう国があるが、この違いはどこに原因があるのか、という問題である。

前者の典型は、古代のローマ帝国と中世・ルネッサンス時代のヴェネツィア共和国。後者の好例は、古代ではギリシア、中世・ルネッサンス時代のフィレンツェ。一国の歴史は、個人の一生に似ている。上手くいく時期ばかりではなく、上手くいかない時期もあるという点で似ている。」

前者と後者を分ける鍵は・・・それは、持てる力や人材を活用する、ということ。

企業で言うと、リストラしても再建できるのは一時期(人材がいなくなる。育たない)。リストラせずに再建すると人材が育つ。

人材がいらないのではない。人材を見つけ、育てることであると言っている。



一口メモ
知識

新しい現実が見える

重大な問いが出てくる。「予測されているものは、今後10年、15年、20年後に起こるものなのか」であり、「本当は、すでに起こっているものなのではないか」である。実は、ほとんどの人は、すでに見てしまったものしか想像できない。

最後に発すべき問いは、「われわれ自身は、社会と経済、市場と顧客、知識と技術をどうみているか。それは、いまも有効か」である。

すでに起こった未来を見つけ、その影響を見ることによって、新しい知覚がもたらされる。新しい現実が見える。まず必要なことは、見えるようにすることである。できることやしなければならぬことを見つけるのは、むずかしくない。機会とは、遠くにあるものでも、曖昧模糊たるものでもない。まず新しい事態を認識しなければならない。

すでに起こった未来を見つけるという方法は、きわめて有効である。

P.F.ドラッカー「チェンジ・リーダーの条件」より

「戦略社長塾東京・小岩校 毎週日曜日 午前10時～12時

「戦略社長塾東京・小岩校 毎週水曜日 午前10時～12時

「戦略社長塾東京・銀座校、五反田校、武蔵村山校、豊岡校 開講中、

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

